

## 第5章 現状・課題

### 第1節 保存管理の現状・課題

#### (1) 維持管理

##### 1) 日常点検

	現状	課題
日常点検	日常点検として、長崎県文化財保護指導員により年3回の巡視が行われている。 また、駐車場および見学路周辺の草刈り等を西海市教育委員会が定期的に行っている。	日常点検として年3回の巡視が行われているが、巡視の頻度が少ないため、月1回程度に頻度を上げる必要がある。 草刈り等については、現在と同じように定期的実施する必要がある。

##### 2) 非常時対応

	現状	課題
非常時対応	大雨や台風等による遺構への影響が懸念される際には、西海市教育委員会が現地確認を行っている。	大雨・台風・地震等の非常時においては、現在も安全を確認の上で現地確認を行っているが、今後も被害状況の確認を必ず行う必要がある。

#### (2) 調査研究

##### 1) 分布調査

	現状	課題
分布調査	史跡指定後、史跡内および史跡周辺を対象とした詳細な調査が行われていないことから、史跡内および史跡周辺を含めた全体の状況が把握できていない。 近年の調査により粗型製作痕やノミによる加工の痕がみられる壁面が複数見つかり、知られていない新たな工房跡が複数発見される可能性がある。	史跡内および史跡周辺の分布調査を実施し、新たな工房跡を確認するとともに、遺構の規模や特徴を把握し、保護を行っていく必要がある。 また、必要に応じて指定地の追加、測量等を行う必要がある。

##### 2) 遺構調査

	現状	課題
遺構調査	現在確認されている11の工房跡では、遺構の現況や記録のための調査が行われていないことから、現況の詳細な把握ができていない。 長年の土砂の堆積で遺構の下部の状況が不明であるため、第1～第11工房跡の全体像がはっきりと解明できていない。	遺構の現況や記録のための調査を行い、保存管理のための基礎資料を作成する必要がある。 工房跡の埋没している下部は、その保存状況等を慎重に検討し、今後の保存活用にとって発掘調査が必要と判断された場合には、十分な体制のもと発掘調査を実施する。

※工房跡ごとの現状と課題は、64ページに記載している。

### 3)遺物調査

	現 状	課 題
遺物調査	石鍋未製品が史跡内に多数残されており、その全容が把握できていない。 また、大瀬戸歴史民俗資料館に保管されている出土遺物の管理は不十分で、図化するなど詳しく記録していく作業は行われていない。	史跡内に残されている石鍋未製品を地点ごとに採集し記録を取る必要がある。 また、保管されている出土遺物の整理を行うとともに、石鍋出土品の調査を行い、全体を把握する必要がある。



写真 5-1 石鍋未製品



写真 5-2 石鍋の破片

### 4)他の生産地等との連携

	現 状	課 題
他の生産地等との連携	他の生産地、消費地との合同イベントや意見交換会等を行われていない。	他地域と積極的に情報共有や交流を図り、ホゲットのみならず、石鍋文化全体の周知に努めていく必要がある。

## 第2節 活用の現状・課題

### (1) 史跡の公開

	現 状	課 題
史跡の公開	令和3年(2021)に第6工房跡で亀裂が確認され、見学者の安全を確保することが困難であることから、立入禁止の措置を行い、史跡の公開を中止している。	ホゲット石鍋製作遺跡の本質的価値を現地で見学に見て学んでいただくため、見学者の安全を確保するための対策等を行い、史跡を公開していく必要がある。



写真 5-3 見学路閉鎖状況①



写真 5-4 見学路閉鎖状況②

## (2) 情報発信

	現 状	課 題
情報発信	西海市の Web サイトにおいて、ホゲット石鍋製作遺跡の紹介を行っている。 ホゲット石鍋製作遺跡に関するパンフレット等は作成していない。	ホゲット石鍋製作遺跡の情報や魅力を Web サイトや SNS などで発信し、石鍋やホゲット石鍋製作遺跡に関心を持つ人々の拡大に努める必要がある。 気軽に学ぶことができるように、学習・交流・観光等の用途に応じたパンフレット・チラシ等を作成する必要がある。

## (3) 周知活動

	現 状	課 題
周知活動	「西海市ふるさと発見講座」や「40 周年シンポジウム」等の現地見学や研修会を行っているが、定期的な広報イベント、事務局主体の学校教育や体験活動等の具体的な活動は行われていない。	定期的に広報イベントや現地見学会を開催し、ホゲット石鍋製作遺跡の周知に努めるとともに、学校教育との連携を図り、地域の将来を担う子どもたちや地域住民への周知活動にも力を入れていく必要がある。



写真 5-5 40 周年シンポジウム



写真 5-6 市民ワークショップ

### 第3節 整備の現状・課題

#### (1) 保存管理のための整備

##### 1) 保存施設

	現 状	課 題
保存施設	境界標の多くが亡失しており、現地で確認できるのは1点のみである。	現地で境界の範囲が明確に分かるように境界標の設置が必要である。



写真 5-7 境界標

##### 2) 工房跡

工房跡の価値・現状・課題は、工房跡ごとに異なり、それぞれの工房跡に合わせた整備を行っていく必要があるため、工房跡ごとに価値・現状・課題を整理する。

##### 【第1工房跡】

価 値	現 状	課 題
壁面から四角錐台形の粗型を造り出し、剥ぎ取った痕が確認でき、剥ぎ取った後に製品への加工が行われていたことも確認できる。	コケの繁茂により粗型製作痕、剥ぎ取り痕が見えにくくなっている。 工房上部より木の根が遺構に入り込んでいるが、木の根による割れ等は見られない。	コケの取り扱いを検討する必要がある。また、樹木の成長により、遺構への影響が発生する可能性があるため、対策を検討する必要がある。

##### 写 真



写真 5-8 コケの繁茂状況



写真 5-9 木の根の入り込み

**【第2工房跡】**

価値	現状	課題
壁面から四角錐台形の粗型を造り出し、剥ぎ取った痕が確認でき、剥ぎ取った後に製品への加工が行われていたことも確認できる。	コケの繁茂により粗型製作痕、ノミ痕が見えにくくなっている。工房反対側の斜面には失敗品が多数堆積していると思われるが、土砂の堆積により廃石・石鍋未製品の状況が不明である。	コケの取り扱いを検討する必要がある。遺構調査の際には土砂を撤去し、廃石・石鍋未製品の状況を確認する必要がある。

写 真



写真 5-10 コケの繁茂状況



写真 5-11 土砂の堆積状況

**【第3工房跡】**

価値	現状	課題
計画的に区画を設定し粗型製作が行われていたことがうかがえる。	区画設定して粗型製作を行っていた痕、ノミ痕がコケの繁茂により見えにくくなっている。第6工房跡への見学路の一部が第3工房跡の中央を通るルートになっており、工房への影響が懸念される。	コケの取り扱いを検討する必要がある。 第6工房跡への見学ルートの変更が直ちに必要である。

写 真



写真 5-12 コケの繁茂状況



写真 5-13 遺構上の見学ルート

**【第4工房跡】**

価値	現状	課題
蛇紋岩が露出するところまで滑石層を剥ぎ取っており、滑石の貴重さを物語る遺構である。	コケの付着が進み、ノミ痕が見えにくくなっており、また、蛇紋岩と滑石の区別がつきにくくなっている。	コケの取り扱いを検討する必要がある。

写 真



写真 5-14 コケの繁茂状況



写真 5-15 ノミの痕

**【第5工房跡】**

価値	現状	課題
現在確認されている工房跡の中で唯一の坑道掘りで粗型製作が行われた形跡がある。	滑石採掘坑が埋没し、遺構の状況が詳しく確認できない。	土砂の除去や調査の必要がある。

写 真

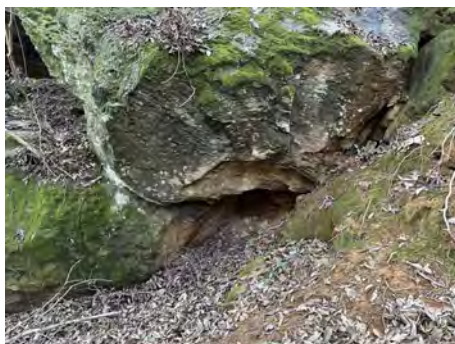


写真 5-16 坑道入口



写真 5-17 坑道内部状況

### 【第6工房跡】

価値	現状	課題
もっとも標高が高く最大規模である。両岩壁には無数のノミ痕や粗型製作の痕が良好な状態で残されている。	クレバス状の岩壁の一部に崩落が起きており、周辺に陥没も確認されている。岩盤に亀裂も入っているため、さらにき損が進む可能性もある。 崩落の危険性が高いため、見学禁止の措置を行っている。	遺構の保全措置および安全な観察の方法を専門家も交え検討していく必要がある。

#### 写 真



写真 5-18 崩落状況ならびに岩盤の亀裂状況



写真 5-19 陥没穴

### 【第7工房跡】

価値	現状	課題
粗型を剥ぎ取った後、壁面に調整を行い、そこから再度粗型製作が行われている。	粗型を剥ぎ取った後の調整面の一部に木の根が入り込み、一部が破損している。樹木の成長に伴い、き損が進む可能性もある。	遺構に影響を与えずに樹木の伐採や木の根を取り除く方法を検討する必要がある。

#### 写 真





写真 5-20 調整面と木の根の状況



写真 5-21 木の根による破損状況

**【第8工房跡】**

価値	現状	課題
岩脈の性質を利用していたことが確認できる。蛇紋岩層に到達するまで粗型の製作を行っていたことが確認できる。	地表で確認できる遺構は少なく、遺構や埋蔵遺物の大部分が埋没していると考えられる。	遺構調査を行い、実態を把握する必要がある。
写 真		
		
写真 5-22 埋没状況①	写真 5-23 埋没状況②	

**【第9工房跡】**

価値	現状	課題
さまざまな方向からの工具痕が確認されることから、良質な滑石層から集中的に粗型製作を行っていったことが確認できる。	落ち葉や腐葉土が堆積し、遺構の形状が分かりにくくなっている。	遺構の周辺整備を行い、遺構を観察しやすく必要がある。
写 真		
		
写真 5-24 粗型製作痕	写真 5-25 落ち葉等の堆積状況	



**【第 10 工房跡】**

価値	現状	課題
併せられたら二個体分（長方形）を切断しようとした顕著な切り込みを残すものがある。	現在、確認できる遺構はわずかであり、埋没している遺構や埋蔵遺物があると考えられる。	遺構調査を行い、実態を把握する必要がある。

写 真



写真 5-26 埋没状況①



写真 5-27 埋没状況②

**【第 11 工房跡】**

価値	現状	課題
4 地点の工房跡が確認でき、剥ぎ取り痕や堆積している廃石の状況を確認すると変遷を追うことができる。	剥ぎ取り痕や堆積している廃石の状況を確認すると変遷を追うことができるが、堆積している廃石は土砂により現在は確認できない。	遺構調査を行い、実態を把握する必要がある。

写 真



写真 5-28 土砂の堆積状況①



写真 5-29 土砂の堆積状況②

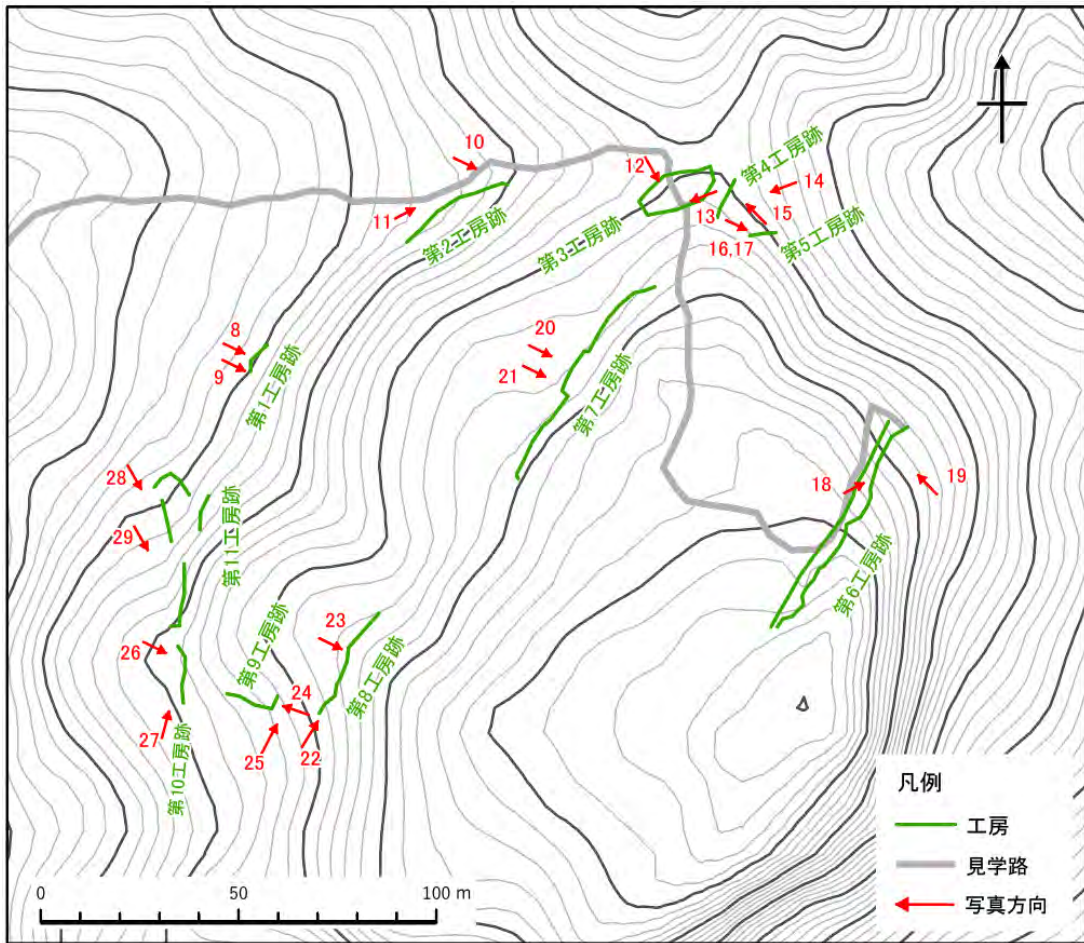


図 5-1 写真位置図

### 3)防犯設備

	現状	課題
防犯設備	史跡周辺は無人であり、遺構を傷つける行為、遺物の持ち出し等の防犯上の問題が懸念され、第6工房跡では、いたづらによるものと思われる傷が確認されている。	遺構を傷つける行為や遺物の持ち出しに対する注意看板の設置および防犯カメラ等の整備を検討する必要がある。 遺構等を傷つけられない対策が必要である。

## (2) 活用のための整備

### 1) 説明板

	現 状	課 題
説明板	史跡説明板が駐車スペース下の道路脇に設置されていたが、破損が見られ危険であったため、上部の説明板部分を撤去した。また、各工房跡の説明板等は一切設置されていない。	史跡説明板の再設置を行う必要がある。また、それぞれの工房跡に解説を記載した説明板の設置を検討する必要がある。

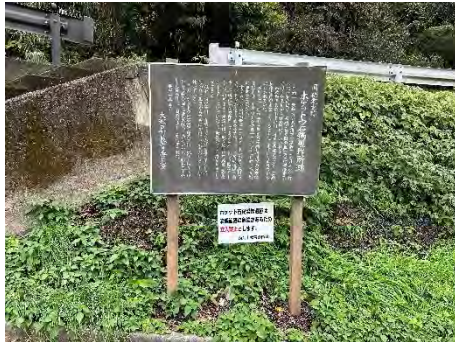


写真 5-30 史跡説明板（撤去前）



写真 5-31 史跡説明板（撤去状況）

### 2) 見学路

	現 状	課 題
見学路	見学路は整備されておらず、イノシシにより一部崩れている箇所もあり非常に危険である。 第6工房跡へ向かうための案内板が設置されているが、数が少なく、劣化・破損している箇所も確認されている。 第6工房跡の崩壊が確認されて以降、見学路は閉鎖中である。	安全に史跡を巡ることができるような見学路の整備を検討する必要がある。また、見学路の一部が私有地となっており、公有化を進める必要がある。 案内板の適切な配置を検討し、設置する必要がある。また、案内板の破損原因の多くは支柱に使われている木の腐朽によるものであり、案内板の材質の検討も必要である。



写真 5-32 見学路（崩落箇所）



写真 5-33 案内板（破損）

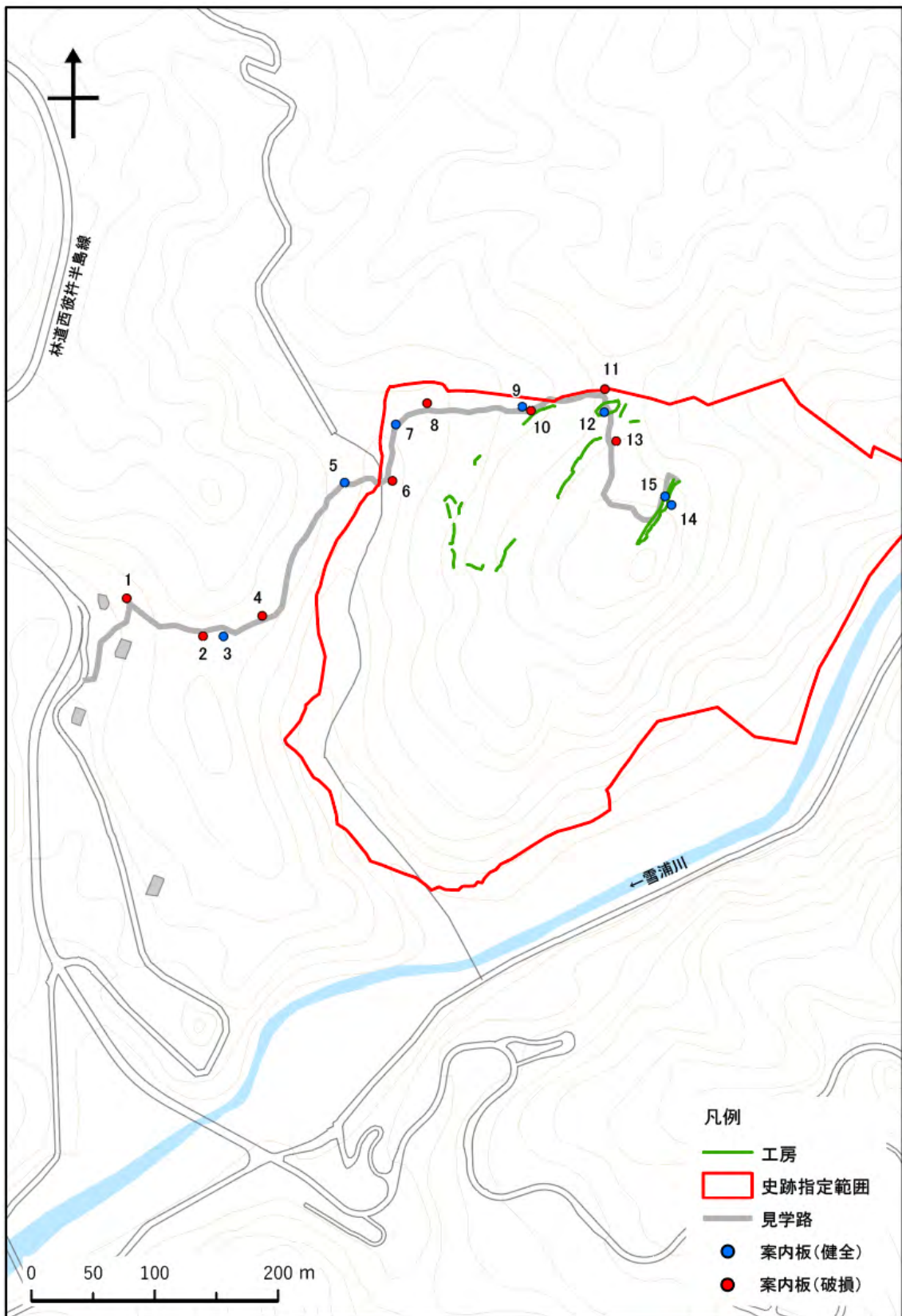


图 5-2 案内板位置图



写真 5-34 案内板①



写真 5-35 案内板②



写真 5-36 案内板③



写真 5-37 案内板④



写真 5-38 案内板⑤



写真 5-39 案内板⑥



写真 5-40 案内板⑦



写真 5-41 案内板⑧



写真 5-42 案内板⑨



写真 5-43 案内板⑩



写真 5-44 案内板⑪



写真 5-45 案内板⑫



写真 5-46 案内板⑬



写真 5-47 案内板⑭



写真 5-48 案内板⑮

表 5-1 案内板一覧表

NO	表示内容	状 態	
1	ホゲット石鍋製作所跡 700m	破損	支柱の腐朽によるぐらつき 看板の釘が外れている
2	石鍋 →	破損	支柱の腐朽によるぐらつき (一部補強済)
3	石鍋 →	健全	
4	ホゲット石鍋製作所跡 570m	破損	看板の破損
5	ホゲット石鍋製作所跡 440m	健全	
6	ホゲット石鍋製作所跡 390m	破損	看板に亀裂あり
7	石鍋 →	健全	
8	ホゲット石鍋製作所跡 320m	破損	支柱に腐朽あり
9	帰り道 →	健全	
10	ホゲット石鍋製作所跡 230m 帰り道 →	破損	支柱の腐朽によるぐらつき
11	ホゲット石鍋製作所跡 160m 帰り道 →	破損	支柱のぐらつき 看板に割れあり (一部補強済)
12	石鍋 →	健全	
13	ホゲット石鍋製作所跡 130m	破損	支柱根元の腐朽によるぐらつき
14	ホゲット石鍋製作所跡	健全	
15	国指定 石鍋製作所跡 ホゲットウ第6工房	健全	

### 3) 史跡へのアクセス

	現 状	課 題
史跡へのアクセス	史跡は、主要道路から離れた分かりにくい場所に位置しており、最寄りバス停から徒歩で30分以上かかるため、公共交通機関での来訪は難しいと考えられる。	来訪者が道に迷わず史跡にアクセスできるように Web サイトやパンフレット等に史跡へのアクセスマップを掲載する必要がある。また、関係部署と連携し、案内板の整備等を促す。



写真 5-49 下の釜バス停（西海市役所方面）



写真 5-50 山口バス停（西海市役所方面）

表 5-2 公共交通（バス）を利用したアクセス

ルート	詳 細	所要時間
長崎市から史跡へ	ルート① ①板の浦行（長崎駅前→下の釜） ②徒歩で史跡へ	1 時間 30 分 1 時間 00 分 計 2 時間 30 分
	ルート② ①大串行（長崎駅前→大串） ②板の浦行（大串→山口） ③徒歩で史跡へ	1 時間 40 分 15 分 30 分 計 2 時間 25 分
佐世保市から史跡へ	ルート③ ①西海橋西口行（佐世保駅前→西海橋西口） ②大串行（西海橋西口→大串） ③板の浦行（大串→山口） ④徒歩で史跡へ	45 分 15 分 15 分 30 分 計 1 時間 45 分
西海市役所から史跡へ	ルート④ ①大串行（西海市役所前→山口） ②徒歩で史跡へ	10 分 30 分 計 40 分

※乗り換えの時間は考慮していない  
所要時間は 5 分刻みで四捨五入



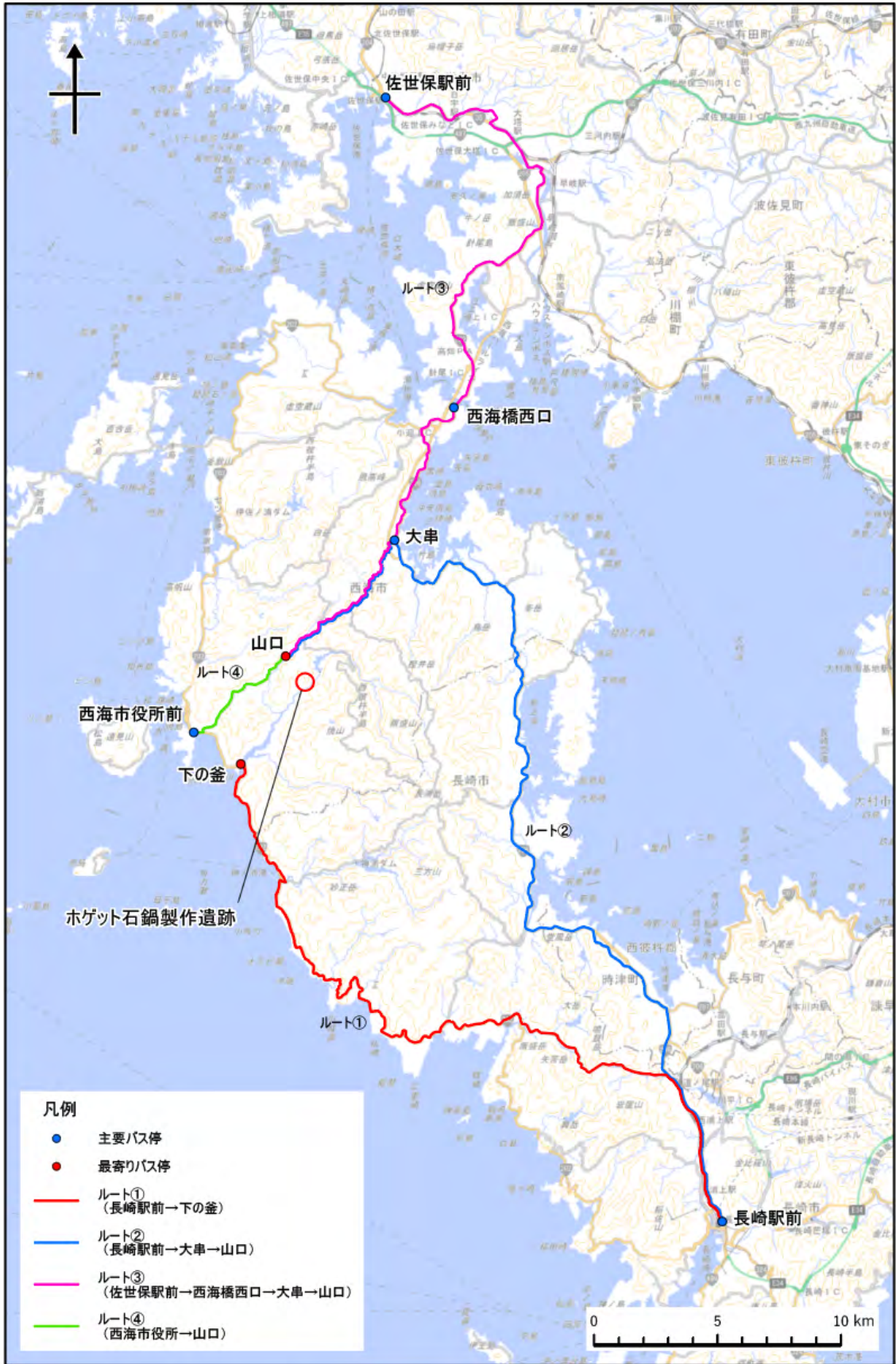


図 5-3 公共交通路線図

#### 4) 便益施設

	現 状	課 題
便益施設	見学路入口周辺に駐車場は整備していないが、道路脇に普通乗用車 3 台程度の駐車スペースがあり、点検時はこの駐車スペースに停めている。	見学者が増加し、史跡の常時公開を行う場合は、駐車場や休憩施設、トイレ等の整備を検討する必要がある。



写真 5-51 駐車スペース



写真 5-52 見学路入口周辺

#### 5) ガイダンス施設

	現 状	課 題
ガイダンス施設	大瀬戸歴史民俗資料館で出土遺物の一部が展示されており、ガイダンス施設として活用されている。 出土遺物の一部が長崎県埋蔵文化財センター（一支国博物館）で保管されており、企画展が実施されている。	来訪者にホゲット石鍋製作遺跡の本質的価値がより伝わるように、展示内容や展示方法を検討し、リニューアルを行う必要がある。 長崎県埋蔵文化財センターに保管されている木製品は、非常に重要な遺物であり、西海市で活用できるよう協議していくことが必要である。



写真 5-53 大瀬戸歴史民俗資料館



写真 5-54 長崎県埋蔵文化財センター

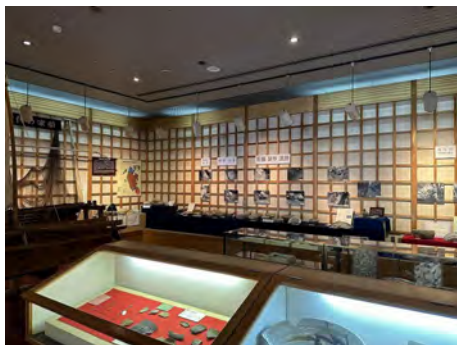


写真 5-55 大瀬戸歴史民俗資料館展示状況



写真 5-56 木製工具

写真：長崎県埋蔵文化財センター提供

#### 第4節 運営・体制の整備の現状・課題

	現 状	課 題
運営・体制	文化財保護法における、史跡の基本的な管理は西海市教育委員会社会教育課文化スポーツ班が行っており、史跡の巡視や除草管理の業務を行っている。また、専門職員が不足している。	調査研究に専念できる体制の確立や専門職員の増員が必要である。